

平成28年度 第2回  
奈良市社会教育委員会議  
会議録

平成29年2月27日会議

平成28年度第2回奈良市社会教育委員会議会議録			
開催日時	平成29年 2月27日(月) 午後2時から午後3時30分 まで		
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第21会議室		
出席者	委員	大井委員、岡田和委員、岡田龍委員、奥田委員、河瀬委員、 艸香委員、小北委員、城田委員、峠委員、永原委員、 中村俊委員、中村博委員、堀川委員 【計13人出席】 (上田委員、川野委員、服部委員は、欠席)	
	事務局	教育長、教育総務部長、学校教育部長、教育総務部次長、 生涯学習課長、生涯学習課課長補佐、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人 0人)	担当課	教育総務部 生涯学習課
議題 又は 案件	1 各大会の参加報告 ①平成28年度人権教育シンポジウム ②第28回奈良県社会教育研究大会 ③平成28年度近畿地区社会教育研究大会 ④第58回全国社会教育研究大会 2 奈良市社会教育推進計画の素案について 3 その他		
決定又は 取り纏め 事項	1 各大会の参加者より報告を受け、意見交換を行った。 2 奈良市社会教育推進計画の素案については、意見を付して了承された。		
<b>議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等</b>			
1 各大会の参加報告 ・各参加者から、各大会について、参加報告書を基に説明(資料1～4)。 ※平成28年度人権教育シンポジウム(資料1)及び平成28年度近畿地区社会教育研究大会(資料3)については、参加した委員が欠席のため、事務局が代わりに説明。			

### 【委員からの意見等】

- ・大会の講演の中で、公民館の窓口が高齢者等の買い物難民の窓口になるなど、もっと役割を広げてもいいのではないかという話を聞き、公民館は地域の一番近くにある窓口だと思うので、いろいろな役割を考えられればと思う。
- ・大会に参加した際、他市町村では多くの社会教育委員が大会に参加していたことから、事情はあると思うが、奈良市においても多くの社会教育委員が参加し、意見交換できればと思う。
- ・大会に参加し、いろいろな情報を得るというインプットする場はあるが、アウトプットする場がないので、大会等に2人以上で参加し、議論を深めることによりアウトプットできればと思う。

## 2 奈良市社会教育推進計画の素案について

- ・事務局より、「奈良市社会教育推進計画（案）」（資料5）について、構成と概要について説明を行い、奈良市社会教育推進懇話会の座長である委員より補足説明を頂いた。

### ○奈良市社会教育推進計画（案）について（事務局説明）

- ・計画面案については、奈良市社会教育推進懇話会等での意見を参考にして作成した。
- ・この会議で意見をいただいた後、定例教育委員会で承認を得て、策定・公開の予定である。
- ・計画の位置づけは、「奈良市第4次総合計画後期基本計画」を最上位計画として、その下の「奈良市教育大綱」を踏まえた、本市の社会教育行政の方針を示す個別計画としている。
- ・計画の期間は、総合計画に合わせ、平成29年度から平成32年度までの4年間としている。
- ・計画の内容は、基本目標を「生涯学習社会の実現」とし、その実現に向け、「まなぶ」、「つなげる」、「ささえる」の3本柱を掲げ、施策を展開している。
- ・計画では、市民だれもが、いつでも、どこでも学ぶことができ、その学びが地域コミュニティの形成や地域活性化につながっていくことを目指している。このように、学びを地域コミュニティの形成や地域活性化につなげていった結果が、地方創生につながるものと考えている。
- ・計画の推進にあたっては、行政が関係部局と連携し、取り組むことは前提として、社会教育委員の方々にも、目標達成に向け、行政と市民の間のつなぎ役として、施策の推進に協力してほしい。

### ○奈良市社会教育推進懇話会で座長を務めた委員より補足説明

- ・計画の名称は、「奈良市社会教育推進計画」としているが、これは計画面案4ページの計画の位置づけにおいて、「奈良市教育振興基本計画」が主として学校教育の基

本計画であることから、この計画と「社会教育推進計画」で「学校教育」と「社会教育」の両方を成立させようとしている。当初、「生涯学習基本計画」という名称について議論したが、「奈良市教育大綱」の下に置くには、「社会教育」とした方が分かりやすいということになった。ただし、巻末の資料において、教育委員会以外の部局が提供する様々な市民向けの学習機会についての一覧を付記し、市民の学習機会を総合的に捉えようとする視点をつくっている。社会教育行政に限定せず、市民の学習は広がりを持って地域社会の中で行われていることを前提としている。

- ・この計画は、行政が何をしていくのかということだけが盛り込まれているのではなく、行政と市民が協働して生涯学習社会の実現を目指していくというスタンスになっている。
- ・地域で活動している団体を代表して来ている社会教育委員が、この計画を理解し、推進していくことが期待されている。
- ・この計画は、生涯学習社会が実現し、みんながいきいきと学び、奈良のことを好きになって、地域のことを支えあいながら学びを促進していく社会になったときに、地方創生につながっていくという見通しを立てている。

#### 【委員からの意見等】

(委員)

- ・計画案の10ページのところで、「まなぶ」、「つなげる」、「ささえる」とあるが、「つなげる」の「学びを通したつながりの推進」のイメージがわきにくい。つながりとは、地域の人すべてのつながりなのか、推進している方々の主体的なつながりなのか。
- (懇話会座長) 施策には、「学校を地域で支援する取組」や「公民館を核とした…」をあげており、地域の中でいろいろ活動している団体や仕組がまずはつながっていくことを第一に考えている。

(委員)

- ・PTAでは、講演会等の学ぶ機会を提供しているが、参加する人はずっとやっているが、このような学ぶ機会に来られない人が多く、広がらない。地域でも、活動している人はいつも一緒に、そこから広がらないところが悩みどころだと思う。「つなげる」のところでは、「ひろげる」というところを含めるとイメージしやすいと思う。
- (懇話会座長) 「つながる」の前提として、「まなぶ」のところで、今まで活動に参加してこなかった人々に呼び掛けてそういう場に来てもらい、多様な活動が地域の人々に届くようにして学ぶ人が増えていくことがつながっていくということになる。PTAであれば保護者の方に連絡するネットワークがあり、他の団体でもそれぞれネットワークがある。団体同士が繋がったときに多くの人いろいろな情報が流れ、学ぶ人が増えていくことによりつながっていくということが言える。

(委員)

・奈良市教育大綱の下での「学校教育」と「社会教育」の両輪ということは理解できるが、「生涯学習」と「社会教育」の使い分けが理解しにくいところがある。計画の内容は生涯学習に関するものだと思うので、計画の名称が「社会教育推進計画」となっていることに疑問点がある。

→(事務局)「生涯学習」は学ぶ側からの視点で捉えた概念で、「社会教育」は教育する側からの視点で捉えた概念とすると、この計画は教育行政でまとめているものであることから、「社会教育推進計画」としている。また、地域の方々にもこの計画を使っていただければと思っている。

→(懇話会座長)計画案の2ページの図のように、社会教育によって行われる学習も学校教育によって行われる学習も生涯学習となる。3ページの図において、最も狭く社会教育を捉えると、教育委員会の中におさまるのが社会教育行政であり、スポーツ振興や男女共同参画の分野も昔は教育委員会の中で社会教育(社会体育、婦人問題)として行っていたことを考えると、広く社会教育行政を捉えた場合、これらも無縁ではありえない。計画の射程としては、これらとも無縁に独立して教育行政だけが行っていることだけに限定するのも意味がないと思う。そうすると、計画名を「生涯学習基本計画」にすればいいと思われるかもしれないが、教育振興基本計画(学校教育に関する基本計画)がある以上、学校教育で行われている学習も広い意味で生涯学習に含まれることになり、ややこしくなるので、便宜上、学校教育と社会教育に分けている。また、社会教育は広い射程を設定しており、こちらから働きかけなくても学んでいる人々の力も吸収していきながら、つながり、ささえていくことまでを描いている。

(委員)

・実際この計画がどのように実施されていくのかという具体的な案は、市民にどのように提示されるのか。

→(事務局)現在、この計画に関わる関係課と調整している段階で、内容について細かいところまで調整していないところがある。総合計画からもってきているところもあるが、今後担当課と調整していきたいと考えている。

→(懇話会座長)この計画に書かれていることは目指すべきところであって、具体的にこれをどのように進めていくのかは載っていない。この計画の推進のために何をしていったらよいのかを社会教育委員会議で議論し、方向性や具体案を出していければと思う。当初、別途このような議論を行う協議会をつくるという話もあったが、社会教育委員会議で議論をすればいいのではないかということになった。

(委員)

・これまで奈良県教育振興会主催で家庭教育講座を実施しており、今年度からは生涯学習センターとの共催で行っている。今までの参加者は、幼稚園、小学校の保護者の方で占められていたが、今年度からはしみんだよりを見ての参加者もおられ、ひろがってきていることを実感している。

- 奈良市社会教育推進計画（案）について了承された。

### 3 その他

- ・奈良市生涯学習財団の安藤事務局長より、3月11日（土）に開催される事業（「公民館って、どんなところ？」）について案内があった。
- ・この計画でも、公民館は重要な役割を担っているが、地方創生を考えたときに、公民館の地域での在り方は地域の人で考えていくべきだと思う。地域教育協議会やコミュニティスクールでも、学校の先生が変わっても地域は変わらないので、地域の人々が学校を支える体制をつくろうとしている。公民館も同じではないかと思う。地域の人々が公民館の在り方を考え、自分たちの公民館を盛り上げていくことが必要ではないかと思う。公民館の在り方について公民館職員だけが考えるのではなく、それぞれの公民館で地域の人々を巻き込むことを考えてほしい。

資 料	<p>【資料1】平成28年度人権教育シンポジウム参加報告書</p> <p>【資料2】第28回奈良県社会教育研究大会参加報告書</p> <p>【資料3】平成28年度近畿地区社会教育研究大会参加報告書</p> <p>【資料4】第58回全国社会教育研究大会参加報告書</p> <p>【資料5】奈良市社会教育推進計画（案）</p>
-----	---